

ちょっと

知ってほしい話

vol.2

令和元年 7月 発行

発行元 地域連携課

医療法人社団 徳成会

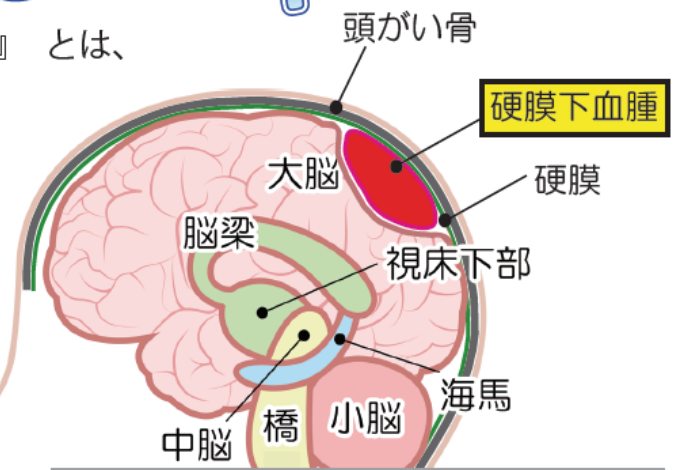
八王子山王病院

Hachioji Sannou Hospital



こうまくかけっしゅ 慢性硬膜下血腫ってなに??

『慢性硬膜下血腫（まんせいこうまくかけっしゅ）』とは、頭部外傷（打撲）や軽く頭を打ったなどの後、頭がい骨の裏に張り付いている“硬膜”とその下にある“脳”との隙間に血がたまる病気です。じわじわと血液がたまり、血腫となって脳を圧迫するため、約3週間～3カ月たってから症状が表れます。そのため、頭を打ったことによる症状だと気づけず、なかなか受診にたどり着けない場合があります。



血腫によって脳が圧迫されるため症状が起こります

こんな症状が現れます

- ◆ 軽いまひによる歩行障害
- ◆ 右または左半身に力が入りにくい
- ◆ 言葉が上手にしゃべれない
- ◆ “ぼけ”や“もの忘れ”
- ◆ 急に認知症が進行した
- ◆ 頭痛
- ◆ 吐き気

傾向として...

転びやすい

脳に萎縮がある
(頭がい骨と脳の間
にすきまが多い)

血液をさらさらにする
薬を飲んでいる



高齢者や
お酒を多く飲む方に多いです

血腫の量が少なく症状も軽い場合は、薬の投与と外来通院で血腫が自然に吸収されるのを待ちます。しかし、血腫の量が多く自然に吸収されることが見込めない場合は、手術が必要となることがあります。一般的な手術は局所麻酔で頭の皮膚を3cm程度切開し、頭がい骨に1cmほどの穴を開けて、その穴より血液のたまりを生理食塩水にて洗い出すという方法です。慢性硬膜下血腫は、近年高齢者に多く見られますが、認知症や脳梗塞と違い、適切な診断と処置をすれば症状は改善し、元に戻る可能性が高い予後の良い病気です。